

「30周年委員会」設置

記念事業の柱は社会貢献

高層住宅管理業協会（黒住昌昭理事長・大京アステーション会長）は9月25日に開いた理事会で、09年10月に迎える協会創立30周年を記念する事業を推進する目的で、「30周年記念事業実行委員会」（委員長・新納清栄副理事長・伊藤忠アーバンコミュニティ社長）の設置を決めた。

理事会後の定例記者会見で黒住理事長は、「記念事業を通じて環境や高齢化といった問題に対する社会貢献にも力を入れて、実りある多くの記念事業を実施する」と方針を説明。

会員会社の若手女性スタッフなどを委員会のメンバーに入れ社会貢献に通じる各種事業やイベントなどを計画して、30周年の節目に管理業の社会的な認知度と

地位の一層の向上に取り組む。

会見では、マンション管理の認知度アップに向けた講演会やディスプレイを東京・大阪で開催する案や防災・防犯イベントの実施案などが出ているほか、09年9月に海外視察、同10月に年史の発行と記念パーティの開催などを計画していることも発表。「住生活総合サービス業への進化」を旨とした中期事業計画を踏まえ、協会の名称変更も検討したい考えだ。

理事会では、日生（東京都中央区、代表者・宮田金哉）、ジー・ゲート（東京都、同・佐藤宏明）、ロウシュウコミュニティ（広島市、同・小川正継）の3社の新規入会を承認。9月25日現在の会員数は425社。